

【地域教育実践報告】

2024年における城西大学経営学部石井ゼミナールの活動

秋山幹太*・阿久津慶悟*・五十嵐空由*・石崎菜愛*・太田満流*
千代田直樹*・戸張風*・中嶋詠智*・吉上遼磨*・石井龍太**

キーワード：ローカルヒーロー、アクティブラーニング

1. はじめに

2015年に世界で唯一、ローカルヒーローを研究・実践するゼミとして始まった城西大学経営学部石井龍太ゼミナールの活動も、2024年で10年目、最後の年度を迎えた。2023年4月に集まった第9期ゼミメンバーは9人、うち4人が2年生から石井ゼミに属していたため、手練が揃った状態でスタートすることが出来た。

彼らが作り出した石井ゼミ第9世代ヒーロー『ミスターJ』は、非常に凝った設定の作品となった。二大勢力が戦い続ける世界を舞台に、どちらにも属さず、武装もせず、しかもピエロのような姿で人を喰った性格のキャラ・ジョーカーを軸に展開する。時事問題を取り込みつつ、他にない活動をした、という石井ゼミの方向性によく合致した内容だったと考えている。また過去のキャラクターは担当教員の石井が造形する例ばかりだったが、ゼミ生の中嶋詠智君によってとうとうデザインから造形まで全て担ったキャラ・雷騎（ライノ）が生まれるに到ったのも、第9期の特筆すべき事柄である。詳細はHP（<https://josaiishiiseminar.wixsite.com/misterj>）にて確認いただきたい。

なお本稿のタイトルは2024年の活動となっているが、実際には『ミスターJ』が始動した2023年末の活動も一部含んで報告する。また本稿では触れていないが、2022年から開始した教員の宮古島発掘調査とセットにした学年・大学を超えた出張ショーを2024年5月5日と8月11日に実施した。そして指導教員の現在の本務校である武蔵大学の学生とのコラボイベントもかなりの回数実施した（2024年3月3日（日）「アメイジング・チャリティ・マーケット」、2024年6月15日（土）「栄町児童館ヒーローステージ」、2024年10月19日（土）「西坂戸ハロウィン」、2024年11月10日（日）「第2回坂戸のまつり」、2024年11月23日（土）24日（日）『2024日本ローカルヒーロー祭』、2024年12月8日（日）「アメイジング商店街V9」）。共に汗を流し、クリエイティブな活動を行った経験は、学生たちが城西大学外に友人を作る契機にもなったことも付け加えておきたい。

本稿は例年通り、学生目線で見えたゼミの姿を記録することに主眼を置いた。ごく基本的な校正は行ったが、学生から提出された原稿を尊重して掲載している。具体的な執筆分担は、文章の末尾に（ ）で記載した。石井ゼミではイベント毎にリーダーを定め、シナリオや配役、当日までの3、4

* 城西大学経営学部4年生

** 城西大学経営学部非常勤講師

週間の活動内容やタイムテーブルまで学生が決めていることから、キャラクター運営団体の裏側を語った証言録ともなり得ると考えている。

小さなゼミではあったが、10年間に100名以上の学生と、その数以上のキャラクターを世に送り出したことは教員として大きな喜びである。そして決して短くない期間やって来れたのは、城西大学と地域の多くの方々のご助力があったお陰である。改めて謝したい。ありがとうございました。(石井)

2. 活動内容

2.1 鶴ヶ島産業まつり (2023年11月11日 鶴ヶ島市運動公園)

鶴ヶ島市産業まつりは、鶴ヶ島市最大級のイベントであり食品販売から展示販売、体験コーナー、ステージショーなど多種多様のブースが出店している。

我々は、ステージショーにおいて『ミスターJ』の1話を披露した。沢山の子ども達をはじめ、大勢の観客でいっぱいとなった。子ども達の声援の元、会場は大盛況であった。

石井ゼミナールの活動では、本番のイベントに向け自身で企画、原稿、殺陣練習、音響、広報等を全て行い、練習の成果を披露する。今回は第1話であり初めての役柄上、ヒーロー達の動きにぎこちない部分があった。仕方の無いことではあるがヒーロー達には常に危機感があった。従って、殺陣の流れ等を時間一杯まで修正し、練習を重ねた結果ミスを最小限に抑えることが出来た。よって、今回の成果は『ミスターJ』の第1話として、好調な滑り出しであったと言える。

ステージ前後に宣伝を目的としたキャラクターグリーティングを行う。会場内で一際目立つ存在であり、子ども達の興味を集めていた。

反省すべき点は、ヒーローのグッズやおまけを使った宣伝を更に行うべきであった。鶴ヶ島産業まつりは鶴ヶ島市最大級のイベントである為、老若男女が多く集まる。従って、幅広い層への認知度が高まるチャンスであった。チラシだけの宣伝ではなく、お菓子やヒーローステッカーを配布しながら宣伝するやり方だ。子供たちだけではなく、ヒーロー達が自ら大人の方へも配布した宣伝方法が興味を集め更なる集客に繋がると考える。

よって、興味を持つきっかけづくりに挑戦し、イベントを通して更に地域の魅力を発信し活性化に貢献出来る。これを機に集客が増



1



2

図2.1 鶴ヶ島産業まつりでのヒーローショー

えれば、グッズを売り出し利益を生み出すことも可能である。

今回のイベントを通し、ヒーロー達は観客がどうやったら喜ぶか、更に観客の立場に立ち改善を重ねることで幅広い世代から喜んで貰える、その様なイベント作りをしたいと思えるきっかけとなったであろう。(石崎)

2.2 ローカルヒーロークリスマスステージ (2023年12月23日 城西大学北坂戸にぎわいサロン)

北坂戸駅前のにぎわいサロンで行われた「ローカルヒーロークリスマスステージ」に参加させていただいた時の活動についてまとめる。内容は私たちが企画している『ミスターJ』の第2話である。

にぎわいサロンでは、クリスマスなどのイベントで石井ゼミが年間2回ほどショーを行っており、地域活動として根付いている活動であるため、少ない人数であるが、披露できた。ステージショーの後には、じゃんけん大会などの遊びをし、盛り上がったイベントであったと思う。

このイベントでよかった点は、自分達の演技を見た事のない人々に見てもらえた事である。ショーの内容として、キャラクターの決めポーズをしっかりと行っており、そして殺陣なども素晴らしく、そして演技もよかったと思った点である。また、全体の撮影会では色々な方に写真を撮ってもらい、そして個別でも写真を撮ってもらった点に対して、素晴らしいイベントであったと思った点である。反対に、反省点としては、効果音に対し、演技が遅れている事や殺陣が遅れてしまった事が、反省点だと思う点である。

最後に、このイベントを開催して良かったと思った事である。理由としては、お客様が少なかったとしても、ショーの内容としては良かったし、そしてあまりミスがなかったという事はよかったのではないのかなと思う。(秋山)



1



2

図2.2 ローカルヒーロークリスマスステージでのヒーローショー

2.3 第14回巾着田春まつり (2024年3月30日 巾着田曼殊沙華公園)

日高市が主催する巾着田春まつりにて行われたローカルヒーローショー『ミスターJ』第3話についてまとめる。満開の桜の中、数々の露店や体験コーナーやステージショーが出店、披露され、子供

や大人たちで賑わう日高市の一大イベントの中でこのヒーローショーが披露された。そのため観客数は1話、2話と比較すると非常に多かった印象がある。ヒーローショー開始前のキャラクターグリーディングでは、老若男女問わずにたくさんの注目を浴びることができ、ショーの良い集客ができた。ショーの終わりには登場人物たちや本イベントの着ぐるみたちとの記念撮影やシール配りなどのサービスをを行い、列をなす程の盛況ぶりであった。

『ミスターJ』の内容を簡潔に説明すると、魔法の国と機械の国が戦争状態にあり、その中で中立派の主人公であるジョーカー、雷騎が戦争を終わらすために奮闘する物語である。典型的なヒーロー物の構成（例を挙げるとすると正義vs悪）ではなく、登場する勢力の双方ともが独自の正義を掲げており、悪というものがない設定がなされている。一見すると子供たちにとっては内容が複雑であり、あまり子供向きではない印象ではあるが現段階では意外とシリアスな部分は控えめであり、大部分の物語の構成はコミカルで面白おかしいものである。第3話の一シーンでは、雷騎は電化製品に対しての扱いは大変弱く、ジョーカーから預かっている冷蔵庫を使いビールを冷やそうとするが、全く冷えないという理由で自身の雷の力で解決しようとし、結果として冷蔵庫のみならず基地までも破壊してしまい、多額の修理費を見積もられてその場で某芸能人の名セリフを放ち、落胆してしまうといった笑いを誘うような内容が展開された。

今回のショーは三回目ということもあり、過去のショーと比べると動きのぎこちなさは幾分減ってはいた。反省点があるとすれば、登場キャラクターの動きと効果音のタイミングにズレや遅れがあり、改善すべき点であると感じた。効果音のタイミングは音響と演者の息が合っていないとずれてしまい、演者の迫力が半減してしまう。タイミングを合わせるのはシビアなことであるが、今後の練習に音響のタイミングの練習を組み込むことで、より完成度の高いショーを披露できると考える。

ヒーローショーというものは唯々シリアスなだけの内容であると、ショーを見にくる年齢層（おおよそ幼児から小学校低学年あたり）にはあまりピンと来ず、つまらない内容になってしまうことだろう。今後のショーも同じようなスタンスで行い、時々シリアスで心に来るような内容をショーに組み込めば高い年齢層のファンの獲得も期待でき、年齢に関係なく「またショーを見たい」と感じさせることもできるであろう。今回はたくさんの閲覧客がいたということもあり、ショーの知名度も幾分上がったと予想され、今後披露する予定のヒーローショーも見に行くお客が増えることも期待できる。

（阿久津）



1



2

図2.3 巾着田春まつりでのステージショー

2.4 昭和99年レトロ祭り（2024年6月23日 坂戸駅北口サンロード商店街内タイムズ駐車場）

この日はあいにくの雨でした。ステージが本来客席側のステージとトラックの二層ステージでしたが、今回は雨だった為ステージがトラックのみに変更されました。急遽当日にステージ変更があった為ゼミ生皆は戸惑いましたが全員でステージを改めて把握し、本番に備えました。本番10分前になりグリーティングを皆で行いました。そこで気づいたのはステージに上がる際の階段があまりにも狭く滑りやすかった為、登り降りする際に注意が必要でした。あとはトラックのステージです。自分達が想像している以上に横幅が狭い為、殺陣をやる際ステージから落ちそうか心配ではありました。不安が募るなか本番が来ました。石井先生の娘さんに司会進行をして頂き、ジャンケン大会などのイベントを行ったおかげで観客の掴みは出来たと感じました。

ステージの音源が流れカチコッチーが登場しました。キャラ自体がインパクトあり名前がキャッチーな為、口遊ぶお客さんも多々おりました。序盤に行ったカチコッチーの一発ギャグは正直成功したとはあまり感じませんでした。観客側から乾いた笑いが聞こえた際、見ている側に気を使わせてしまった所は反省すべき点でした。ですがこのような事はチャレンジして学んで行く事が大事だと考えております。次回のカチコッチーの一発芸にまた期待です。

シナリオが徐々に進み、レイ、雷騎、ジョーカー、カチコッチーが退場する際、次に登場するインフェリティーがトラックステージ側に登場するのが困難だった為、急遽『観客席側のステージ』に登場する事になりました。あまり違和感を感じさせる事なく対処もできその場は乗り切りました。

シナリオの中盤になり全体的に皆、練習の時よりも役になりきれてるよう感じました。ですがフウラとインフェリティーの掛け合いのシーンではもう少しオーバーに表現しても良かったなと個人的に反省致しました。レイとカチコッチーの同時セリフは本番スピーカーで流した際、セリフの内容が聞き取りづらい印象でした。レイの声が主体な印象を感じます。シナリオの後半になりインフェリティーのボール爆弾を持ち出すシーン。ネイトピア兵の変装をしたジョーカーが登場しました。思わず笑みを浮かべてしまう程、変装が溶け込めてなく心配していましたが、ある意味笑いを取る上では正解だったかもしれません。ジョーカーの正体が発覚し、マントを脱いだ後、マントの回収を石井先生の娘さんにスムーズに行ってもらいました。その流れで殺陣が始まりました。ステージが狭い為、殺陣をする際に小道具のボール爆弾を落としてしまいそうで心配でしたが、皆殺陣をやりながら落とさないように神経を尖らしながら行ったおかげで無事行えました。爆弾が爆発する寸前、フウラが爆弾を回収して控えテントに投げ込み、ジョーカー達を救う段取りになっていたのですが、フウラの登場するタイミングは完璧だったものの、営業中の屋台にボールが行ってしまいました。幸



図2.4 昭和99年レトロ祭りでのヒーローショー

い怪我などは無く安心出来ましたが、次からは念入りのチェックを怠らないよう心掛けたいと感じました。

終盤、カチコッチーに一齐に畳み掛けるシーンは練習の時よりも上手く行ったと思います。ですがインパクトはもう少しあっても良かったのかと感じました。

無事ステージショーを終え、特に大きなトラブルなど発生もせず行えたので今回のステージショーは成功したと考えております。色々な部分で反省する所はありますが次のステージショーに向け準備を行っていきます。(太田)

2.5 坂戸七夕まつり (2024年7月13日 坂戸駅北口サンロード商店街内タイムズ駐車場)

2024年7月13日に行われた、「坂戸七夕まつり」に参加した際の活動についてまとめる。今回我々が行った内容としては、我々が運営しているローカルヒーローショー『ミスターJ』6話の披露、及びグリーティングとなる。参加した坂戸七夕まつりの開催地は、前回の活動と同じ場所だが、前回と比較して相違する点は当然存在する。それは数多くの露店の種類、晴れ渡る当日の青空、そして客席とステージの形態だ。そうした中であっても変わらないものもまた存在する。それは祭りを楽しみ、賑わう大勢の人々。その中で我々の日々の活動の成果を行動することを通して「みせる」こと、そしてそれを楽しみにしている人々がいるということだ。

ローカルヒーローショー、及びその前後に行われたグリーティングの双方は参加したまつりと同等に賑やかな中で行われた。まずローカルヒーローショーについて、今回は石井ゼミナールの各学生が考案したキャラクターが初めて舞台に勢揃いした回となる。それだけあって、個性豊かなキャラクター達全員で行われた終盤の殺陣はまさに圧巻だった。また、グリーティングについてはショーの前にチラシ配りを兼ねた観客との交流を行い、ショーの後は握手会を行った。特に握手会では記念撮影やシール配りのプレゼントを通じて子どもを中心とした多くの人に花が咲いたような笑顔が多く見られた。私としても嬉しい限りであり、この盛況を見るに成功に違いない。

しかし、反省点も存在する。ゼミナールの学生内でも利用者の多い電車における人身事故による遅刻は、都合により仕方がなかったとはいえども、遅刻者が多く出、かくいう私もその一人である。これに



1



2



3

図2.5 坂戸七夕まつりでのヒーローショー

より、ショーの練習が予定よりも短くなってしまったことが悔やまれる。しかし、それを抜きにしても練習不足な面が顔を覗かせていたとも思う。特にミリョク、イーシャは今回が初登場ともあり、動きとしては悪くなかったがまだ演技などには工夫の余地があると思われる。

我々の活動は地域に根ざしたものであり、キャラクターを通じて地域に貢献するものである。その中で活動を通してキャラクターの姿を見せるだけでなく、キャラクターを通じて魅せることもまた大切なことであると私は考えている。この活動を通じて「成長」することを一個人として願い、日々努力をする所存である。(千代田)

2.6 北坂戸イーストフェス (2024年7月27日 坂戸市芦山公園)

北坂戸イーストフェスにて行なわれた城西大学石井ゼミナールによる『ミスターJ』第7話についてまとめる。7月下旬、我々ヒーロー活動を行う者たちとしては1年を通してもっとも過酷な時期だと言える。例年北坂戸イーストフェスでは、観客席とステージとその間が広く空いており、狭い環境で活動することが多い我々は地面が乾いた砂地であることも相まって、出捌けや出戻りには普段以上に気を使っていた。また『ミスターJ』第7話は先生がいらない中行なわれたヒーローショーであり、皆が不安を抱えていた。しかし後輩との連携や音響担当であった太田君によるスムーズな手配により、前回よりも劣ることのない活動にすることができた。この功績は今後のヒーロー活動の糧になると考えている。



1



2

図2.6 北坂戸イーストフェスでのヒーローショー

今回のヒーローショーの見どころは、いつもジョーカー役の千代田君が演じるデジヴァース兵にある。デジヴァースとネイトピアが互いに誠実さを持って和平を進めようとする中、彼は尊敬する上司であるスミスを押しのけてでも自分の正義を貫こうとしていた。中だるみをしてしまうことが多い中、彼の迫真の演技はショーにピリッとした緊張感を与えてくれた。

最後に、今回のヒーローショーの良い点悪い点をまとめる。良い点としては当日学生のみでの活動の中、やることをやりきれたことと、猛暑と広い砂地という難しい環境の中でも大きなミスなくヒーローショーを上演できたことがある。悪い点としてはステージが広いがゆえに距離感が掴めず、観客席から遠くなってしまったことと、最後の最後、ヒーローとの握手や写真撮影の時間にあまり人を呼び込めなかったことがある。

良い点はさらに良くできるように、悪い点は問題点を改善し今後のヒーロー活動に活かして行きたいと考えている。(吉上)

2.7 城山地域交流センター文化祭(2024年10月20日 城山地域交流センター)

2024年10月20日に行われた、城山地域交流センター文化祭に参加させていただいた時の活動についてまとめる。内容は、『ミスターJ』第8話「トリックスター★パニック」である。

この日は天気も良く、幅広い年齢層の方がいたため、グリーティングの時間をいつもより長めにとった。10月中旬にもかかわらず気温も高く数人体制でグリーティングを行い、交代しながら写真撮影やチラシ配りを行った。

この日のステージショーは体育館のステージ上でのステージショーだったため、観客席との距離が少しあり、ステージの上とステージの下をうまくつかいステージショーを行うことができた。

今回のステージショーでは、インフェリティーがイーシャ博士を騙し、イーシャ博士の試作品を悪用してしまう序盤のシーンが重要であり、お客様にこのショーの世界に入り込んでいただくようステージの下で観客席の近くで行い、楽しんでいただけるようにできた。



1



2



3

図2.7 城山地域交流センター文化祭でのヒーローショー

次のシーンでは、ネイトピアとデジヴァースの戦争を止めるためにレイがスミス中尉と話し合いをしに行くシーンで、フウラが空気を読まずにレイの目の前で戦争を止めるための会談に行くことを口滑らせてしまう。このシーンでは4人の個性や性格が出ていて見どころの一つとなった。

良かった点の1つ目に、ステージの上と下をしっかりと使いこなしてステージショーを行うことができた。

2つ目に、ステージショーの前に行ったグリーティングで多くの人たちと写真撮影や握手ができた。また、チラシもしっかりと色々なヒーローが配ることができ、宣伝できたと思う。

3つ目に、本番までにしっかり練習した殺陣の迫力や、ひとつひとつのシーンに力を入れられた。

反省点は、ステージの中央より少しずれてしまうシーンが多々あったため、そこをしっかりと修正して次のステージショーに活かしていきたい。

最後に、全体的に反省点も少なく良かった点の多いステージショーだったと思う。ステージショーが始まる前からヒーロー活動がしっかりできており、今後も良かった点は継続していき、反省点はしっかりと改善していき、次のステージショーに活かしより良いものにしていきたいと思う。(五十嵐)

2.8 毛呂山産業まつり (2024年11月16日 毛呂山運動公園)

2024年11月16日に行われた、毛呂山産業まつりに参加させていただいた時の活動についてまとめる。内容に関しては、『ミスターJ』第9話「平和を目指して」である。

この日の天気は曇り、気温が上がりきる前の午前中で肌寒い気温の中でのショーとなった。今回のショーでは、当日にキャラクターの役者に欠席者が出てしまったため、急遽タンイヤバーナ2号の役者に石井龍太先生が割り当てられた。練習から本番まで時間がない中で全員何とか動きを叩き込みショーに臨むことができた。今回のグリーティングでは、ショー本番までの時間があまりなかったので遠くに行けず、ステージ周辺でのグリーティングにとどまった。

また、今回のステージは地面を含めて3段の階段状のステージ構成となっており、ステージ上での立ち回りやアクションに奥行きを持たせることができたショーだったと思う。

今回のステージショーはインフェリティーに焦点が当たる。今までスミスの部下だった彼だが、物語の序盤から頭角を現し始める。『ミスターJ』は国同士の考え方の違いに焦点を当てた作品であるため、長らく悪役らしい悪役が居なかったが、今回は分かりやすい悪役をインフェリティーが演じてくれたため、観客の方もヒーローショーとして見やすかったと思う。

このシーンにてインフェリティーは今まで上官だったスミス中尉に対して不満を露にし、頭角を現し始める。彼の真意を知り、止めようとするスミス中尉と言動と行動が不穏になっていくインフェリティーという、今後のシナリオの布石でもある重要なシーンである。

続いて今回のステージショーの良かった点について纏める。

- ①ステージの段差をうまく活用して動いていたところ。
- ②当日欠席者が出たにもかかわらず、大きなミスや破損は無かったところ。
- ③グリーティングにて観客との距離が近くなるように絡んでいけたところ。

次に今回のステージショーの反省すべき点について纏める。

- ①出捌けの位置の確認が不十分だった。
- ②元の音声データがどうやら古い間違っただけのものを使用されていた。



図2.8 毛呂山産業まつりでのヒーローショー

最後に今回のステージショーは目立つ反省点も多いが、ステージの構造から今までのショーの中でもかなり動きやすかったステージでもあり、またシナリオ面においても『ミスターJ』の物語終盤ということもあり、次のシナリオに続く布石が散りばめられた良いショーになったと思う。今回の反省点には今後気を付けて改善に努め、ここから更にクオリティを上げて次回のステージショー、その次の最終回に向けて臨みたい。(中嶋)

2.9 2024日本ローカルヒーロー祭 (2024年11月23日 アリオ蘇我)

2024年11月23日に千葉県千葉市蘇我で行われた日本ローカルヒーロー祭に参加させてもらった活動をまとめる。

今回は、武蔵大学のゼミの方と共同で行った。また3組のヒーローのペアで、会場を回った。天気が良い影響で、たくさんのお客さんがいらっしやっただき、グリーティングも予想していた人数よりも多く、とても嬉しかった。また11月にも関わらず気温は寒くなく、ちょうどいい気温であったため、グリーティング後に、今後のイベントに関するチラシ配布を行っていた。

お客さん以外にも、日本ローカルヒーロー祭であるため、北海道から沖縄までの全国各地の色々なヒーローの方もいらっしやっていて、自分が知らなかったヒーローがいたので、この様なヒーローもいらっしやるんだなと思い、そして知る事ができた。

ステージでは、ショーは行わなかったが、ヒーロー紹介でステージに登壇した。この時はいつものショーよりも人が多く、ちゃんと喋れるかとても緊張したが、自分なりに頑張れたのではないかと考えている。

右の写真(図2.9-2)は、この日最後に全てのヒ



図2.9 2024日本ローカルヒーロー祭での活動の様子

ーローがステージやステージ周辺に、集合した写真であり、自分が思っている以上のヒーローがいらっしゃっていて、改めてローカルヒーローってすごいと思った。

良かった点の一つとしては、千葉といういつもとは全然違う所で行ったため、いつもとは違う年齢層の方に、知っていただける事が出来た事。2つ目は、またこの様な祭りでしか会う事が出来ないご当地のローカルヒーローさんに、知っていただけた事。

悪かった点は、5時間以上着ていたため疲れていた事が他の人にもばれてしまった事である。これからは、悪い事が起きないように気を付けて、ステージショーに活かしていきたいと思う。(秋山)

2.10 坂戸イルミネーション点灯式 (2024年12月1日 坂戸駅北口タイムズ駐車場)



1



2



3

図2.10 坂戸イルミネーション点灯式でのヒーローショー

というシーンでもある。

良かった点の1つ目としては、ステージを目一杯使ってショーを行えたこと。2つ目は、ショー前のグリーティングで、色々な人にチラシを配る事で、色々な人に宣伝できた事。悪かった点としては、

2024年12月1日に行った坂戸イルミネーション点灯式に参加させていただいた活動をまとめる。この時に行った内容としては、『ミスターJ』第10話「破滅と再生の刻」である。

この日は初めて夜に行った。また天気が良かった影響で、思ったよりもお客さんが多く、色々な年代の方に見てもらえる事ができた。またグリーティングは、しっかりと行う事ができた。12月だったため寒く、時間を短くしてショー前のグリーティングを行い、チラシを配った。

今回のステージは、これまで行っていたステージの中で一番小さかった。そのため、その小さいステージを目一杯使って、ショーを行った。

また、来ていただいたお客様は、親子連れもいたのだが、その分主催者を含むたくさんの方にも見ていただいた。

今回のステージは、段差がないステージであった。その影響でお客さんとの距離が近く、これまでのショーの中でも迫力があったと思う。またその影響でアクションも目の前で行われたため、それに関しても迫力があり、見やすいショーであったと思う。

写真のシーン(図2.10-2)は、戦いが行われる前に、上司であるスミス中尉を洗脳したインフェリティーに対してジョーカーが怒っているシーンである。これ以降に、大変な事となるとは誰も知らないというシーンでもある。

ショー中に全然動けていなかった事である。良かった点は、変わらず行っていき、そして悪かった点
 が起きないように改善をして、次のステージショーに生かしていきたいと思う。(秋山)

2.11 坂戸児童センタークリスマス会 (2024年12月24日 坂戸児童センター)

2024年12月24日に行った坂戸児童センタークリスマス会に参加させていただいた活動をまとめる。
 この時に行った内容としては、『ミスターJ』最終話「Never ending Hope」である。

この日は天気良かった。今回は初めて室内である児童センターでショーを行う事ができた。児童
 館であるため、小さい子供たちに見てもらえる事ができた。

ショー前のグリーティングを行い、チラシや応援グッズ（光るブレスレット）を配るなどを行って
 いた。またショー後のグリーティングでは、クリスマスであったためお菓子を配ったり、プレゼント
 （クリスマスカード 図2.11-4）をあげたりなどを行った。

今回のステージは、前回よりもステージが少し大きかった。そのため、ステージを目一杯使ってシ
 ョーを行った。

また、見ていただいたお客様の中には、子供たちは多くいたが、児童センターの先生達も見えてい
 だいたので、色々な大人の方にも見ていただいた。

今回のステージは、段差がないステージであった。その影響でお客様との距離が近く、これまでの
 ショーよりも見やすいショーとなった。また今回はアクション少なかったが、その分、演技が見やす



1



2



3



4

図2.11 坂戸児童センタークリスマス会でのヒーローショー

いショーであったと思う。

写真のシーン（図2.11-3）は、最終決戦が終わった後に戦犯であるインフェリティーの刑を決めているシーンである。このシーンは、これまで色々なキャラクターに迷惑をかけた事に対してのけじめをつけるシーンであった。

良かった点の1つは、ステージを目一杯使い、ステージショーを行う事ができた事。2つ目は、ステージ前のグリーティングで、小さい子供達に知ってもらえた事や、児童センターの先生達にも、知ってもらえたことである。悪かった点は、ショー中に、あまり動けていなかったことである。今回は最後のショーであったためより気合を入れて行ったが、最後も悪かった点があった。しかし小さい子供達や児童センターの先生達が、楽しんでみてくださっているのを見て、やってよかったなとより思った。（秋山）